

「てんたかく」における斑点米カメムシ類の発生と被害

富山農総セ・農業研究所・病理昆虫課

背景と目的

近年、富山県の斑点米カメムシ類の発生は、従来から見られるトゲシラホシカメムシ(トゲシラホシ)より、アカヒゲホソミドリカスミカメ(アカヒゲ)やアカスジカスミカメ(アカスジ)といったカスミカメムシ類が多くなってきており(図1)、カスミカメムシ類は、早生品種「てんたかく」に斑点米被害を及ぼす主要種となっている。

そこで、「てんたかく」における出穂後のカスミカメムシ類の発生推移と登熟時期別の斑点米発生量と加害部位を調査し、防除対策の基礎資料とする。

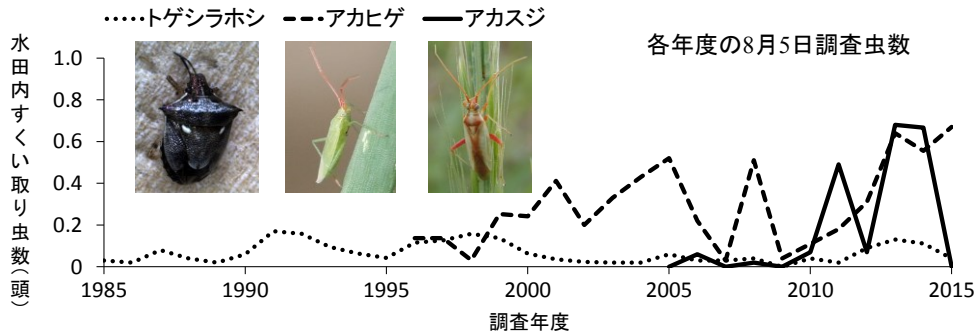


図1 斑点米カメムシ類3種の水田内すくい取り虫数の年次推移(1985~2015)

成果1 「てんたかく」におけるカスミカメムシ類の水田内での発生推移と斑点米の発生

- 登熟前半に成虫が水田内へ飞来し、一部は産卵する。
登熟後半は、孵化した幼虫(主にアカヒゲ)の発生が多くなり、出穂20日後頃にピークを迎える。
- 割籼率が高い場合は幼虫の生息数が多くなり、側部斑点米の発生が著しく増加する。

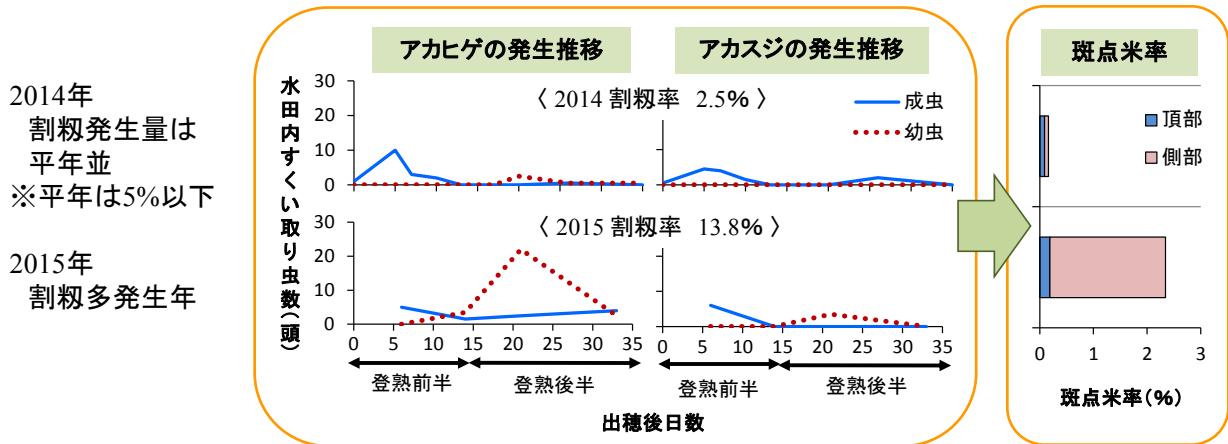


図2 割籼の発生量と無防除田におけるカスミカメムシ類の発生推移および斑点米(2014~2015)

成果2 「てんたかく」におけるアカスジによる登熟時期別の斑点米発生量と加害部位

- 登熟前半は頂部斑点米が多く、登熟後半は、割籼が増加し側部斑点米が多い。

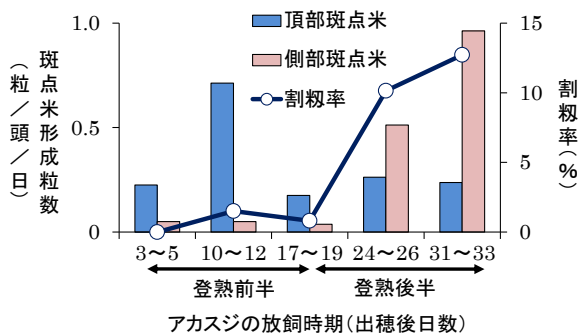


図3 アカスジによる登熟時期別の斑点米形成粒数と「てんたかく」の割籼率の推移(2014)



図4 カスミカメムシ類の加害による斑点米(2015)